

リーディングDXスクール事業【実践事例】

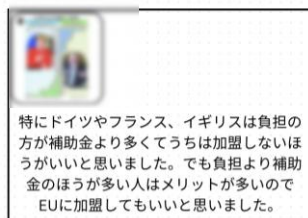
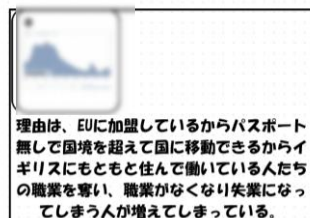
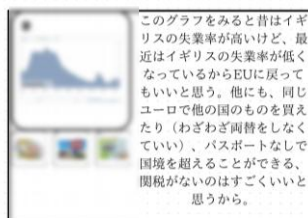
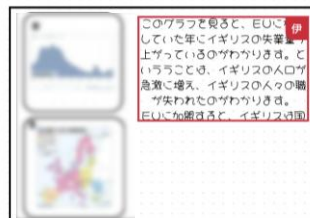
箕輪町立箕輪中学校・箕輪町（長野県）【指定校】

【取組内容】②情報活用能力の育成（社会科 授業公開：10月）

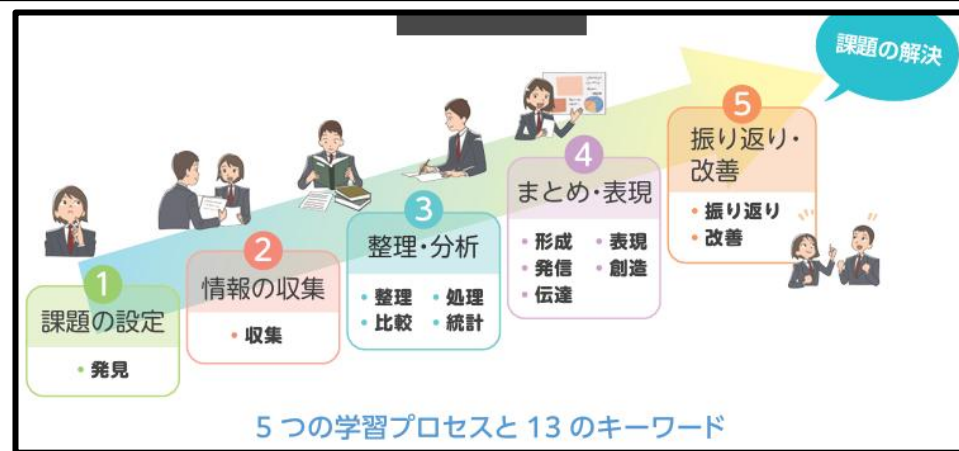
ヨーロッパ

イギリスは再びEUに加わるべきか

根拠となる資料をコピーして、自分の意見を明らかにしよう。



授業の構想及び実践に資する学習のプロセスに情報活用能力を位置づけた指導指標を開発し、それを「情報活用能力ベーシック」と名づけました。「情報活用能力ベーシック」は、学習指導要領をはじめ、文部科学省が公開している関連文書を対象に、「情報活用能力ベーシック」に適合するキーワードを抜き出し、整理したものです。（抜粋、引用）



「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック 中学校編」より引用
（日本教育情報化振興会（JAPET&CEC）より発行）

ホワイトボードツールを使い、考えをまとめることに対して生徒自身は熱心に取り組んでいた。「教科としての学び」を深める時間と「情報活用能力の育成」という両面を意識しながら授業を行った。

本時は、上記の5つの学習プロセスの【2情報の収集、3整理・分析】が中心となっていた。

自分の考えの根拠となるものを見つけ出したり、ICT機器を用いて、伝わりやすいように画像や文章でまとめようとしていた。1年生ということもあり、ICTツールに慣れることも目的の一つであったため、教科としての学びの部分が浅くなってしまったところもある。ここまでまとめられる生徒だったからこそ、自分の考えをもった状態で「議論すること」で、より考えを深めることができたと思われる。ICT機器を使いながら教科の特色を伸ばすことは、全体としての課題であることが分かった。